

宮 城 県 の 経 済 動 向

平成 20 年 第 4 四半期

(10 月 ~ 12 月 期)

本県の経済概況

平成20年第4四半期(10月～12月期)の宮城県経済の動向をみると、生産は、急速に低下している。住宅投資は、低調である。公共投資は、低調である。個人消費は、低調である。雇用は、厳しい状況となっている。企業倒産は、件数、負債総額ともに減少となった。

このように、景気は停滞し厳しさを増している。

[前期(平成20年7月～9月期)の概況]

生産は、横ばい傾向であるが、弱含んでいる。住宅投資は、持ち直しの動きもみられるが低調である。公共投資は低調である。個人消費は、一部に持ち直しの動きもみられるが低調である。雇用は、弱い動きとなっている。企業倒産は、件数は同値、負債総額は増加となった。

このように、景気は足踏み状態である。

生産

鉱工業生産指数は、前年同期比が3期ぶりに低下となった。大口電力使用量は、前年同期比が2期連続の減少となった。

住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が持家は2期ぶりに減少、貸家は8期連続の減少、分譲住宅は2期連続の増加となった。

全体では6期連続の減少となった。

公共投資

公共工事請負金額の発注主体別の前年同月比は、国が2期ぶりに減少、県が2期ぶりに減少、市町村が2期ぶりに減少となった。

全体では2期ぶりに減少となった。

大型小売店

大型小売店販売額(百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較)は、前年同期比が37期連続の減少となった。百貨店は前年同期比が3期連続の減少となった。スーパーは前年同期比が37期連続の減少となった。

自動車

軽自動車の新車届出台数を含む乗用車新車登録台数は、前年同期比が8期連続の減少となった。普通車は前年同期比が2期連続の減少、小型車は前年同期比が2期ぶりに減少、軽自動車は前年同期比が2期連続の増加となった。

物価

仙台市消費者物価指数は、総合指数は、前年同期比が6期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は、前年同期比が6期連続の上昇となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は、3期連続の低下となった。

雇用

有効求人倍率(原指数)は、前年同期差が5期連続の低下となった。新規求人倍率(原指数)は、前年同期差が6期連続の低下となった。実質賃金指数(製造業・30人以上)は、前年同期比が2期ぶりに低下となった。

企業倒産

企業倒産は、件数は前年同期が6期ぶりに減少となった。負債総額は前年同月比が6期ぶりに減少となった。

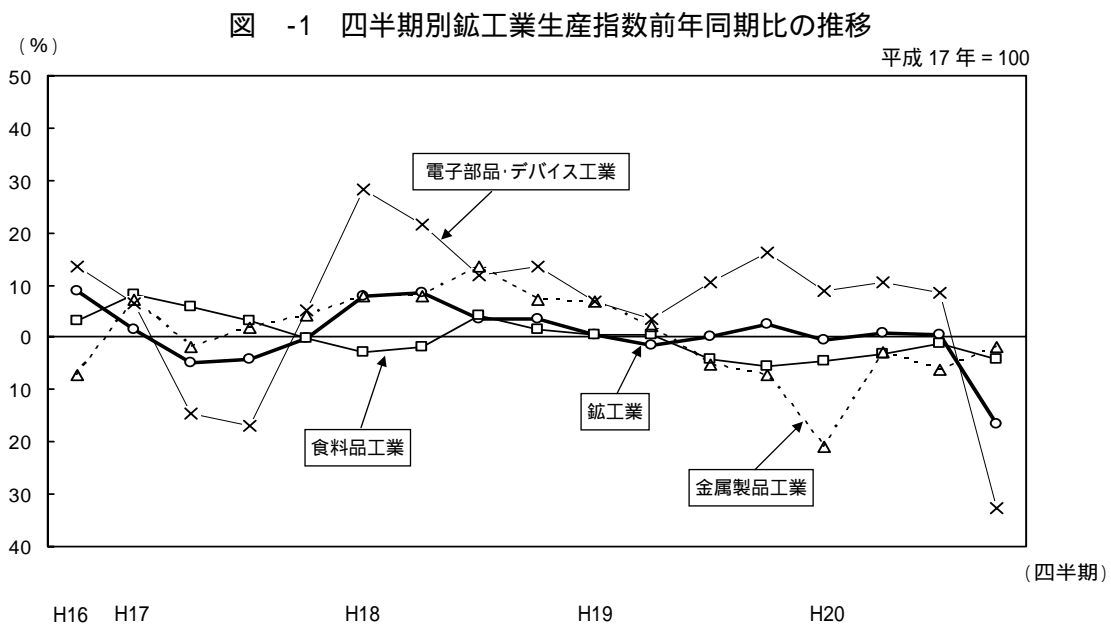
生産

(1) 鉱工業生産指数

平成20年第4四半期(10月～12月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は90.6(平成17年=100)で、前年同期比(原指数での比較)が16.5%の低下となり、3期ぶりに低下となった。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、食品工業は前年同期比が4.2%の低下となり、6期連続の低下となった。電子部品・デバイス工業は前年同期比が32.8%の低下となり、13期ぶりに低下となった。パルプ・紙・紙加工品工業は前年同期比が9.6%の低下となり、6期ぶりに低下となった。金属製品工業は前年同期比が1.8%の低下となり、6期連続の低下となった。

一方で、電気機械工業は前年同期比が8.6%の上昇となり、2期連続の上昇となった。



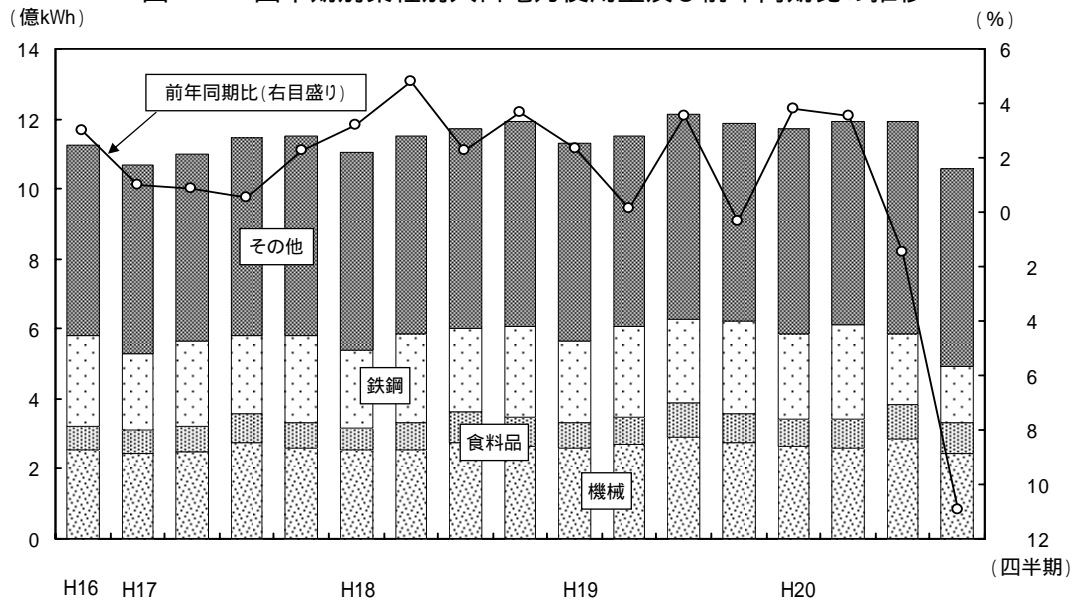
(資料:宮城県統計課)

(2) 大口電力使用量

平成20年第4四半期(10月～12月期)の大口電力(契約電力500KW以上)使用量は10億5,778万 kWhで、前年同期比が10.9%の減少となり、2期連続の減少となった。

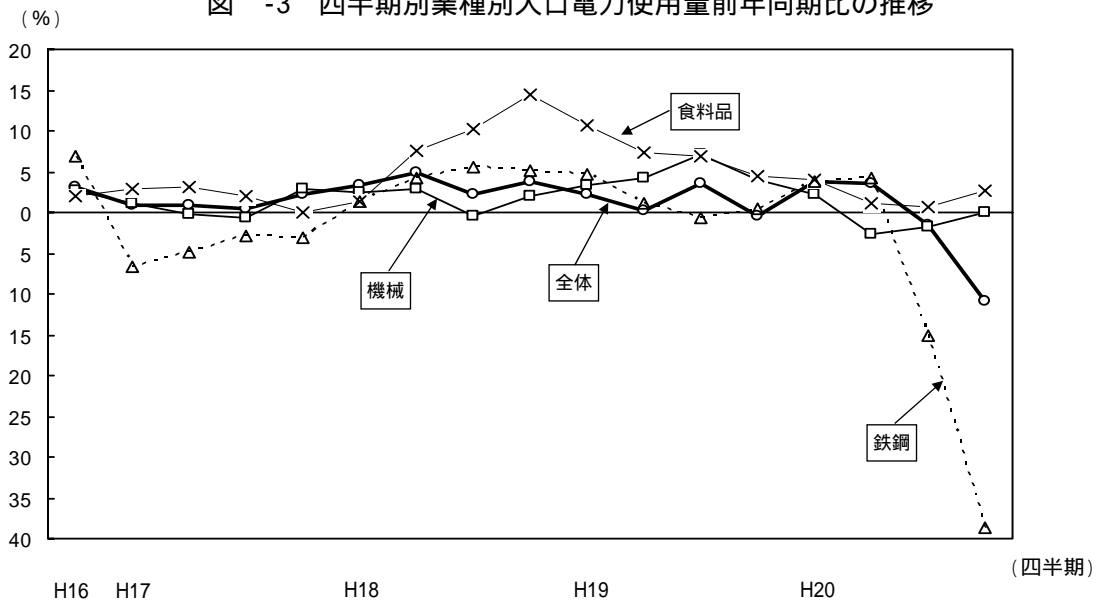
主要業種別にみると、食料品分野は前年同期比が2.7%の増加となり、平成16年第3四半期以降、18期連続の増加となった。機械分野は前年同期比が10.9%の減少となり、3期連続の減少となった。鉄鋼分野は前年同期比が38.7%の減少となり、2期連続の減少となった。

図 -2 四半期別業種別大口電力使用量及び前年同期比の推移



(資料: (株)東北電力宮城支店「業務資料」)

図 -3 四半期別業種別大口電力使用量前年同期比の推移



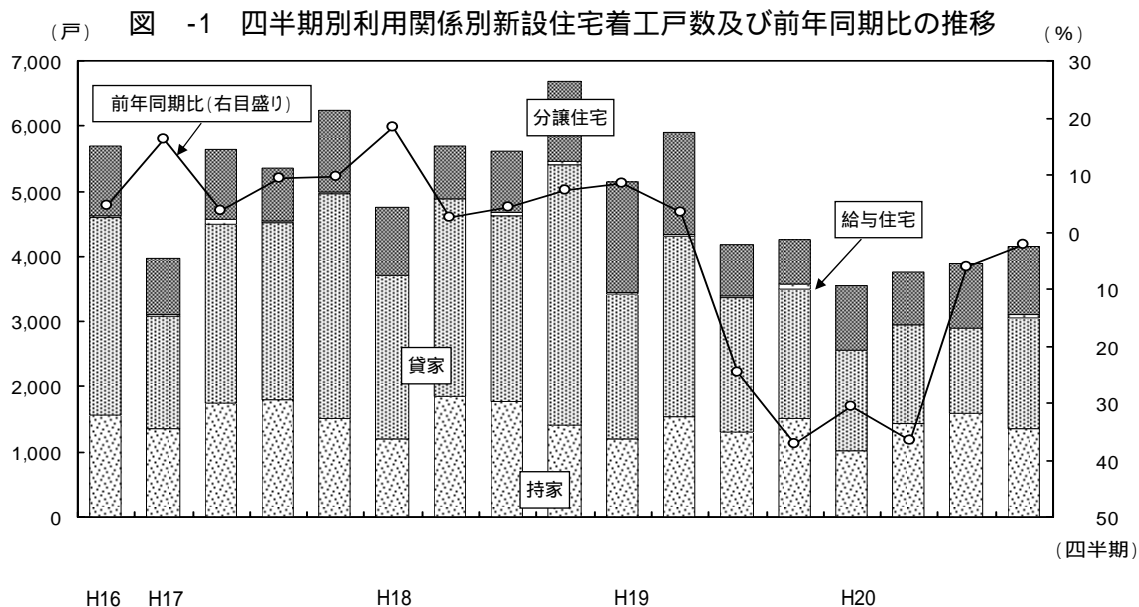
(資料: (株)東北電力宮城支店)

建設投資

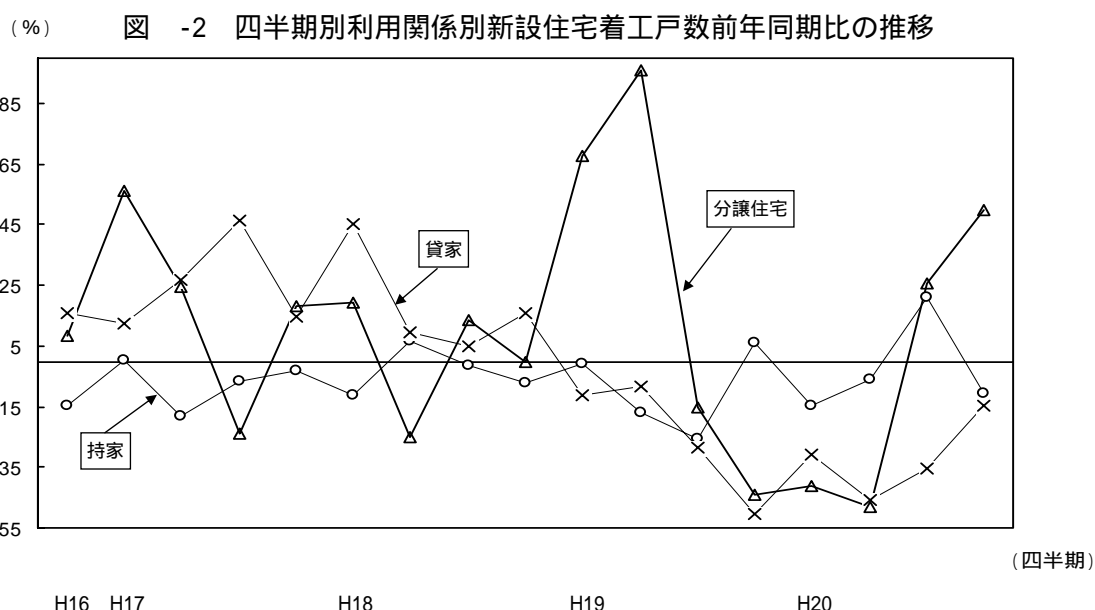
(1) 新設住宅着工戸数

平成20年第4四半期(10月～12月期)の新設住宅着工戸数は4,107戸で、前年同期比が2.3%の減少となり、6期連続の減少となった。

利用関係別にみると、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が10.4%の減少となり、2期ぶりに減少となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が14.4%の減少となり、8連続の減少となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が49.8%の増加となり、2期連続の増加となった。



(資料:国土交通省)

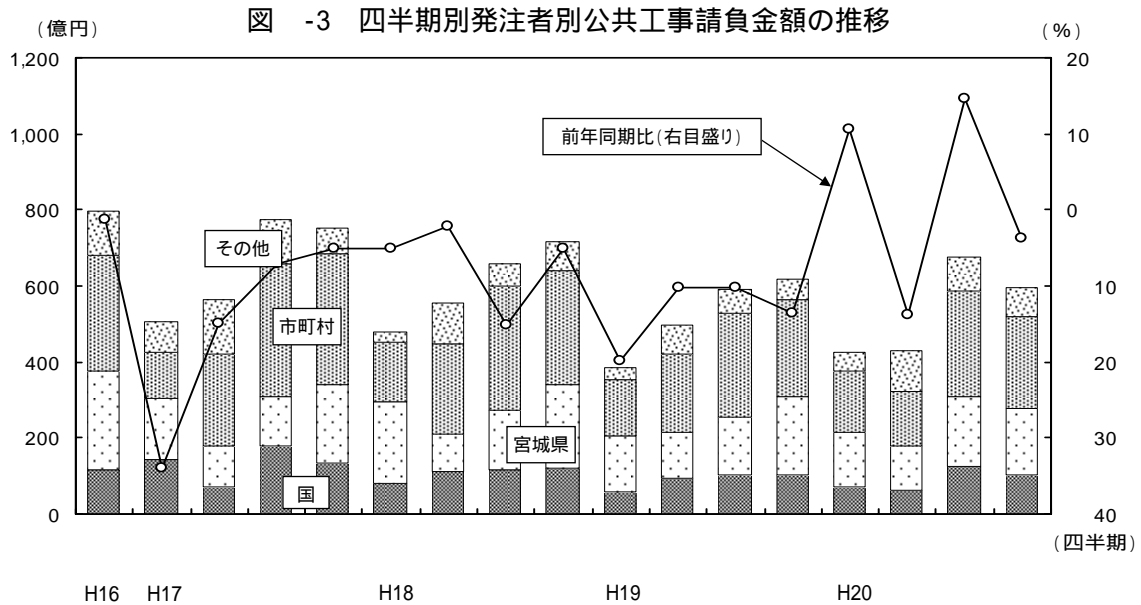


(資料:国土交通省)

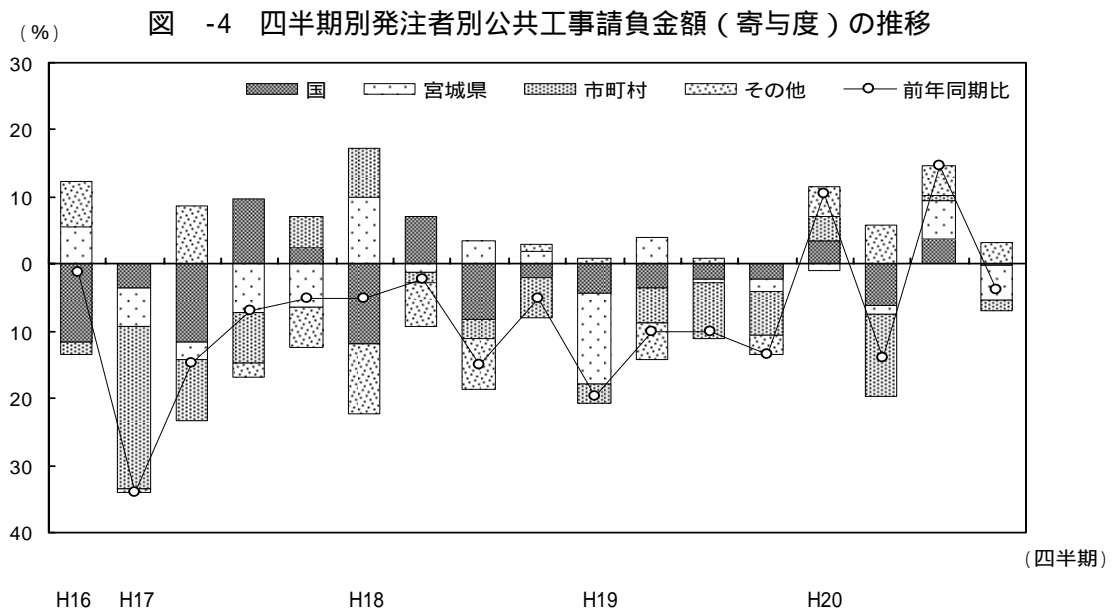
(2) 公共工事請負金額

平成20年第4四半期(10月～12月期)の公共工事請負金額は594億8,900万円で、前年同期比が3.8%の減少となり、2期ぶりに減少となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が0.6%の減少となり、2期ぶりに減少となった。宮城県は前年同期比が16.0%の減少となり、2期ぶりに減少となった。市町村は前年同期比が3.6%の減少となり、2期ぶりに減少となった。



(資料:東日本建設業保証(株))



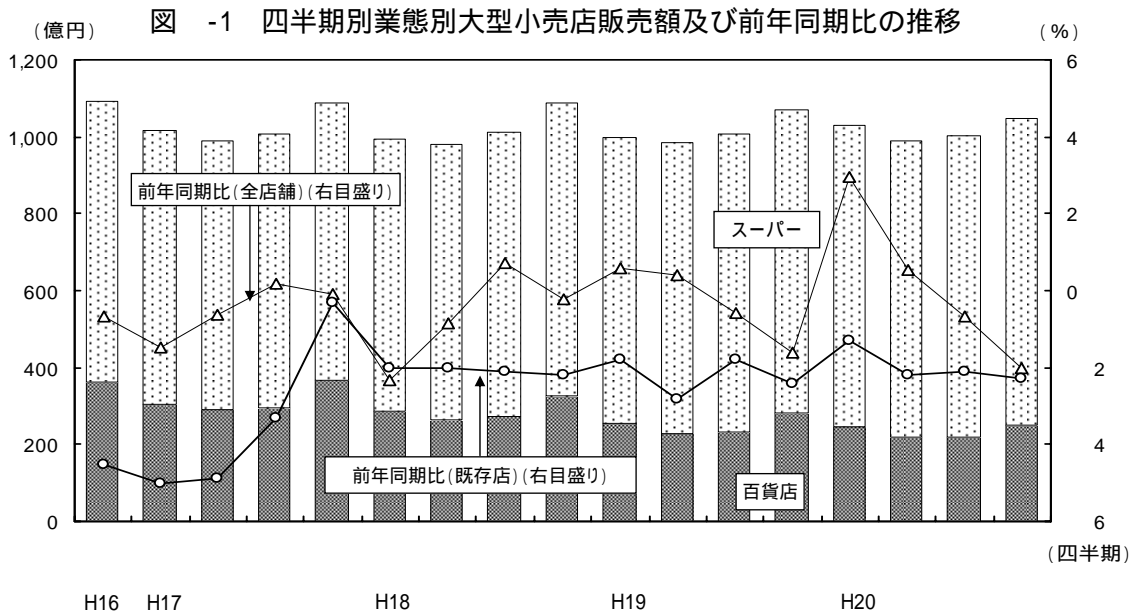
(資料:東日本建設業保証(株))

個人消費

(1) 大型小売店販売額

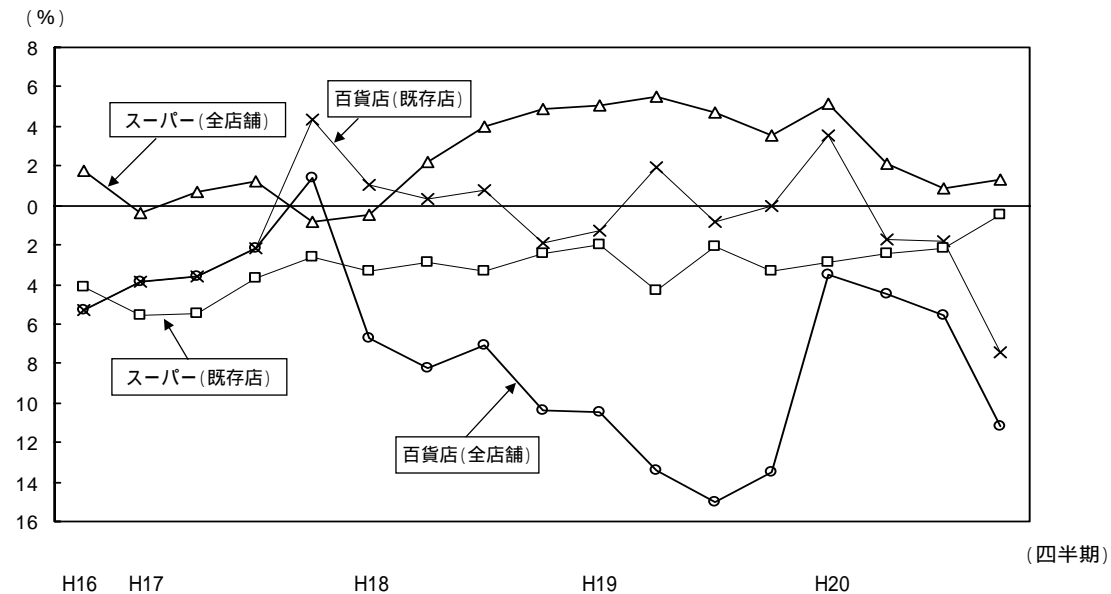
平成20年第4四半期(10月～12月期)の大型小売店販売額は、1,049億9,400万円で、前年同期比(既存店比較)が2.3%の減少となり、平成11年第4四半期以降、37期連続の減少となった。

業態別にみると、百貨店の販売額は251億9,900万円で、前年同期比(既存店比較)が7.4%の減少となり、3期連続の減少となった。スーパーの販売額は797億9,500万円で、前年同期比(既存店比較)が0.5%の減少となり、平成11年第4四半期以降、37期連続の減少となった。全店舗比較では前年同期比が1.3%の増加となり、11期連続の増加となった。



(資料:東北経済産業局)

図 -2 四半期別業態別大型小売店販売額前年同期比(全店舗、既存店比較)の推移

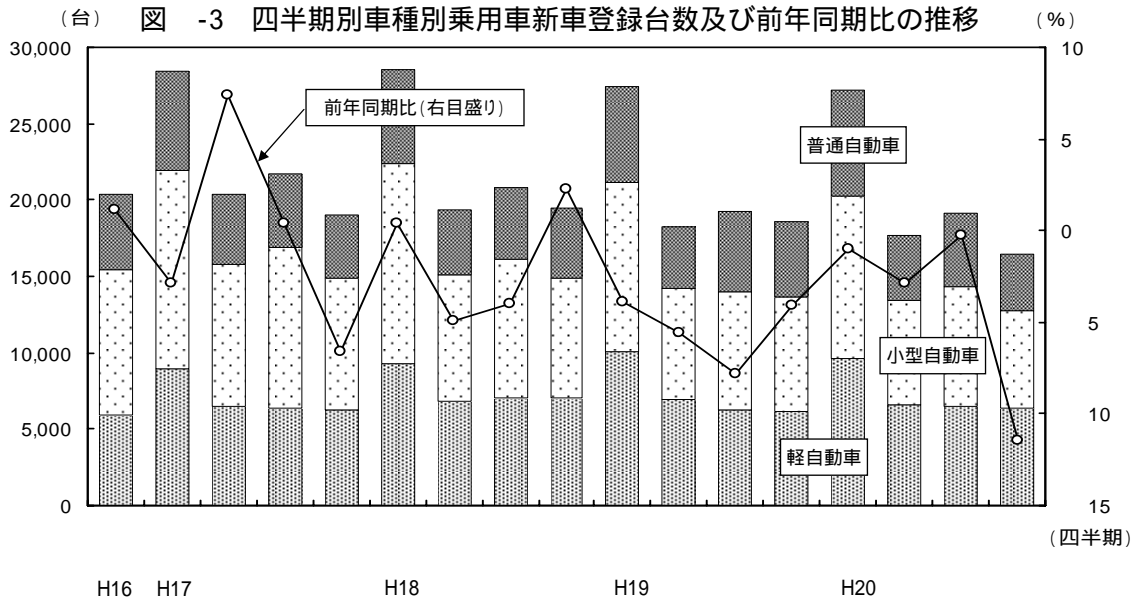


(資料:東北経済産業局)

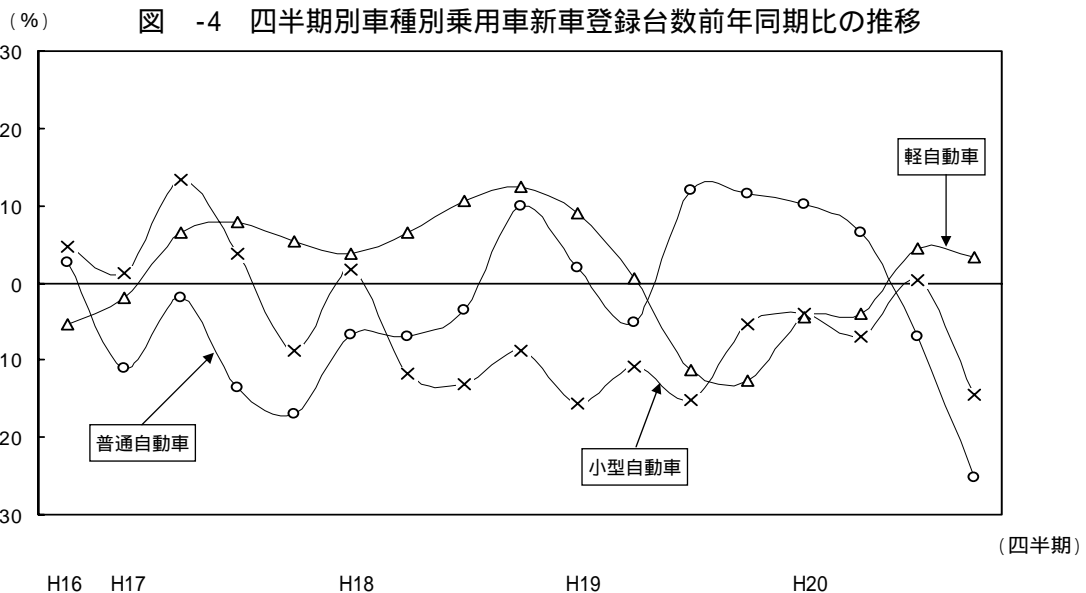
(2) 乗用車新車登録台数

平成20年第4四半期(10月～12月期)の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万6,509台で、前年同期比が11.4%の減少となり、8期連続の減少となった。

車種別にみると、普通車は前年同期比が25.1%の減少となり、2期連続の減少となった。小型車は前年同期比が14.4%の減少となり、2期ぶりに減少となった。軽自動車は前年同期比が3.4%の増加となり、2期連続の増加となった。



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)

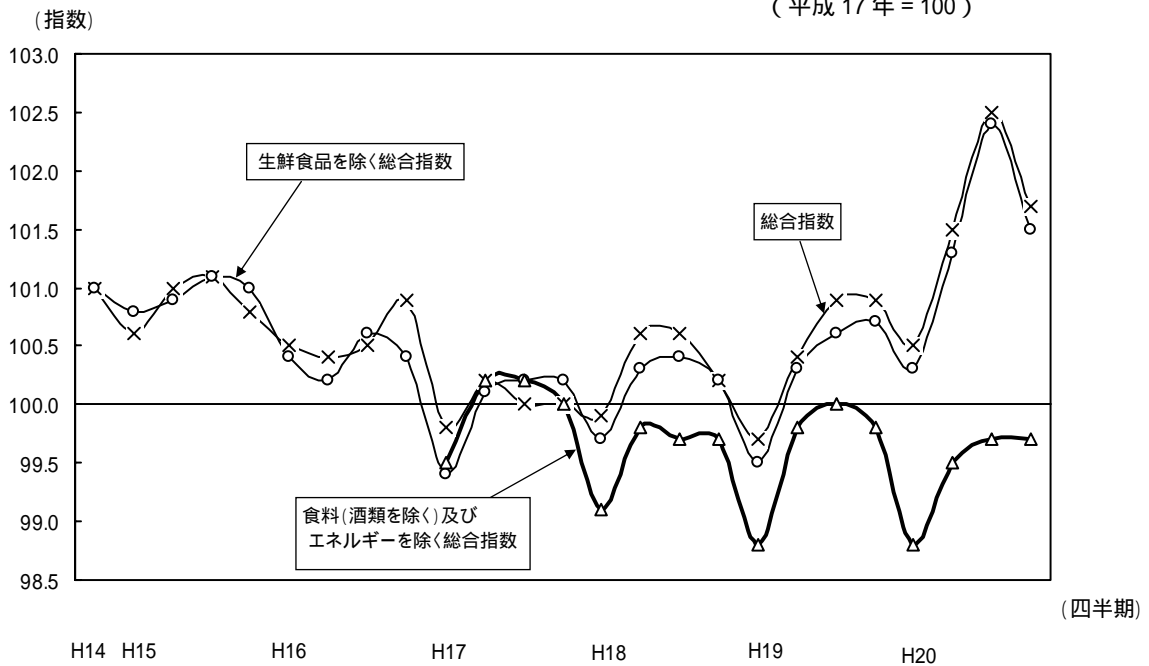
物 価

(消費者物価指数)

平成 20 年第 4 四半期(10 月～12 月期)の平均仙台市消費者物価指数(平成 17 年 = 100)は、総合指数は 101.7 で、前年同期比が 0.8%の上昇となり、6 期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は 101.5 で、前年同期比が 0.8%の上昇となり、6 期連続の上昇となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は、99.7 で、前年同期比が 0.1%の低下となり、3 期連続の低下となった。

図 総合指数、生鮮食品を除く総合指数などの推移

(平成 17 年 = 100)



(資料:宮城県統計課)

雇 用

(1) 有効求人倍率及び新規求人倍率

平成 20 年第 4 四半期(10 月～12 月期)の有効求人人数(月平均値)は 2 万 9,059 人で、前年同期比が 24.0%の減少となった。有効求職者数(同)は 4 万 7,291 人で、前年同期比が 10.2%の増加となった。有効求人倍率(原指数)は 0.61 倍で前年同期差は、0.28 ポイント低下し、5 期連続の低下となった。

新規求人人数(月平均値)は 1 万 785 人で、前年同期比が 22.2%の減少となった。新規求職申込件数(同)は 1 万 1,657 件で、前年同期比が 12.8%の増加となった。新規求人倍率(原指数)は 0.93 倍で前年同期差は、0.41 ポイント低下し、6 期連続の低下となった。

図 -1 有効求人人数(四半期平均) 有効求職者数(同)及び

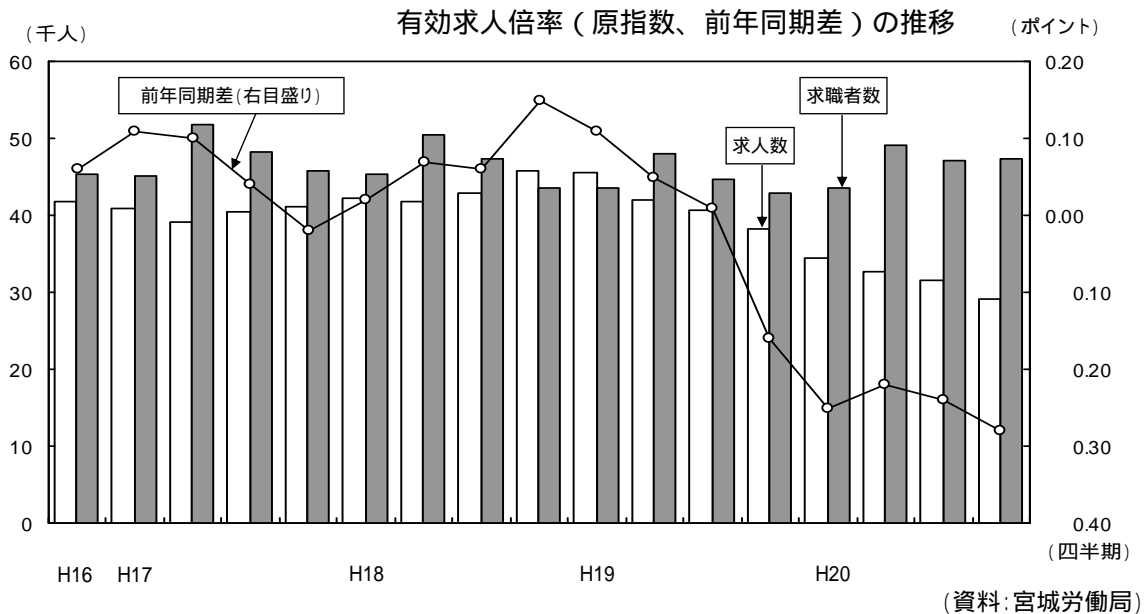
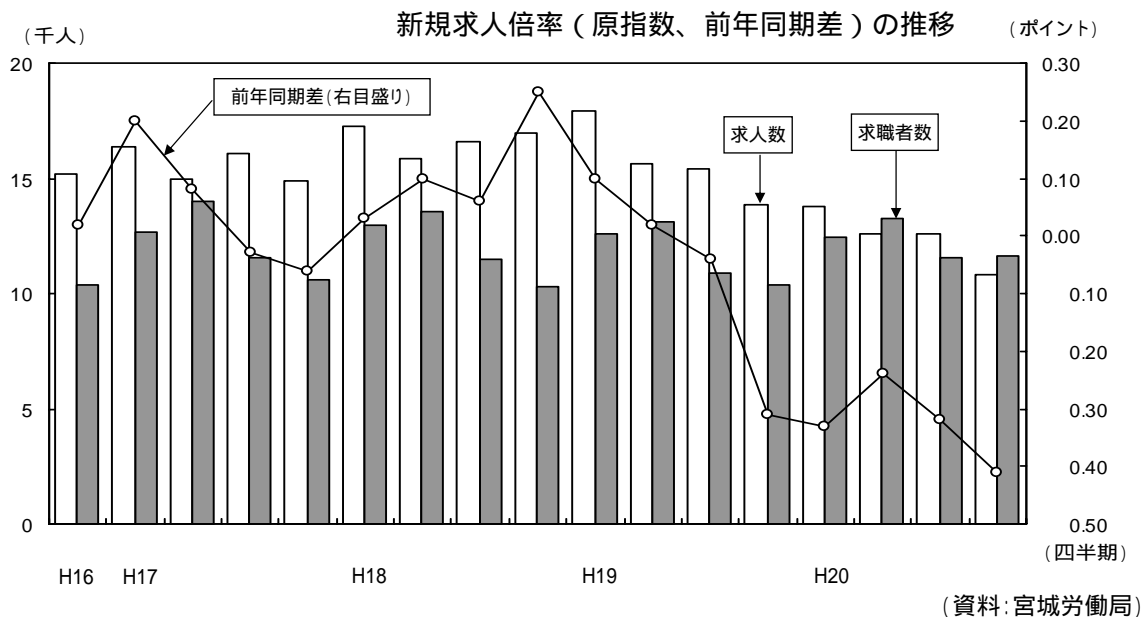


図 -2 新規求人人数(四半期平均) 新規求職者数(同)及び

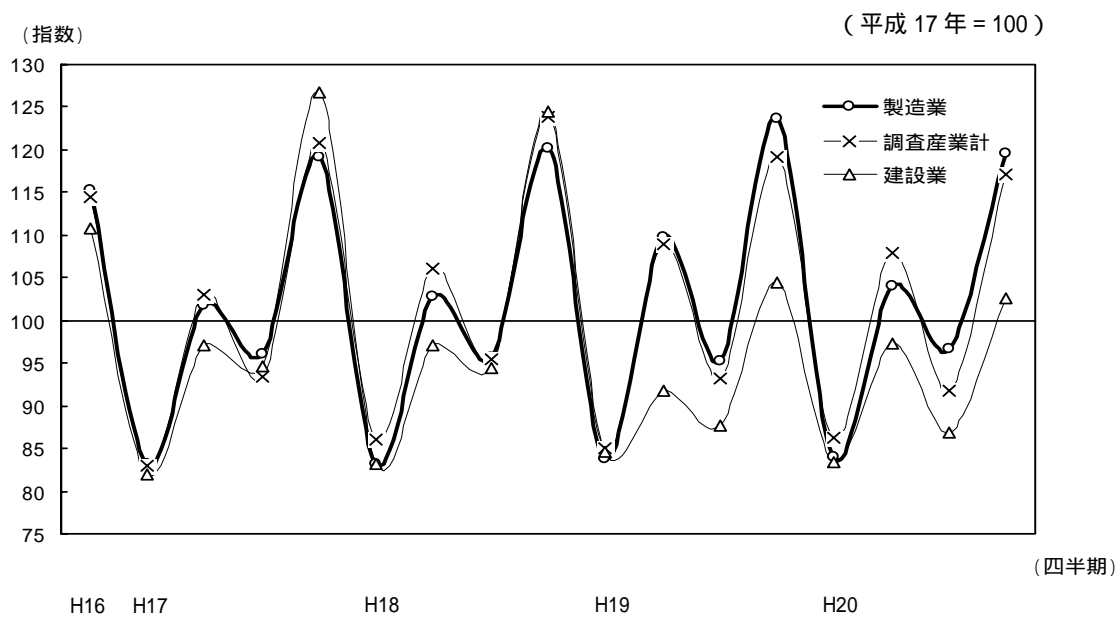


(2) 賃金

平成 20 年第 4 四半期(10 月～12 月期)の実質賃金指数(平成 17 年 = 100)の調査産業計(事業所規模 30 人以上)は 117.1 で前年同期比が 1.7%の低下となり、3 期連続の低下となった。

主要業種別にみると、製造業(事業所規模 30 人以上)は 119.5 で前年同期比が 3.4%の低下となり、2 期ぶりに低下となった。建設業(事業所規模 30 人以上)は 102.7 で前年同期比が 1.7%の低下となり、2 期連続の低下となった。

図 -3 四半期別主要業種別実質賃金指数の推移(事業所規模 30 人以上)



(資料:宮城県統計課)

倒産

(企業倒産)

平成20年第4四半期(10月～12月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は43件で、前年同期比が23.2%の減少となり、6期ぶりに減少となった。

負債総額は147億3,600万円で、前年同期比が20.0%の減少となり、6期ぶりに減少となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、赤字累積)の件数は33件で、2期連続の減少となった。件数の構成比は76.7%で前年同期より5.4ポイント低下となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は2件発生し、前年同期より2件減少した。負債総額は、61億1,400万円であった。

図 -1 四半期別倒産件数及び前年同期比と不況型倒産構成比の推移

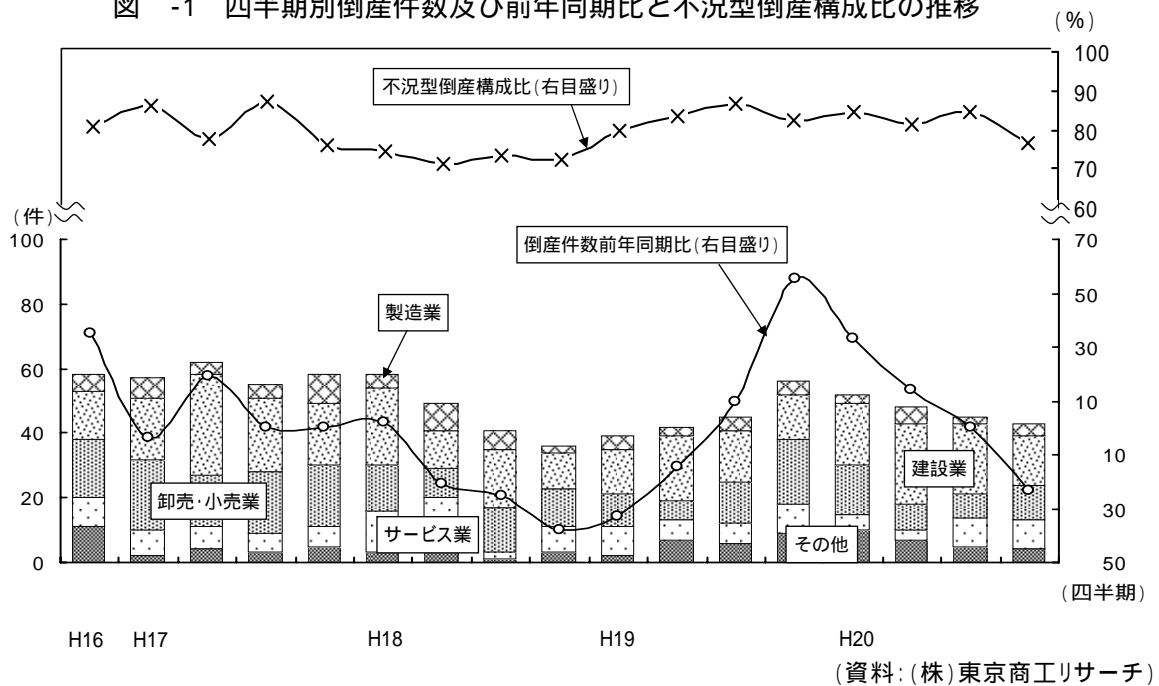


図 -2 四半期別倒産の負債総額及び前年同期比の推移

